



第11回 高大連携教育研究会のご報告

リベラルアーツセンター センター長 小椋 理子

日時：平成30年9月4日(火) 14:30～16:30
会場：湘北短期大学（1号館2階 120教室）
テーマ：キャリア教育と教養

- 「湘北の就職対策実践演習」
キャリアサポート部 部長 竹内 淳
- 「社会で必要とされる教養－数的リテラシー」
総合ビジネス・情報学科 副学科長 内海 太祐

AI（人工知能）やバイオテクノロジーの発展、経済のグローバル化の進展、急速に進む少子高齢化と人口減少など、日本社会の急激な変化に伴い、社会で必要とされる人材に求められる知識や能力も変わりつつあります。そのような状況の中で、キャリア教育として求められる基礎的な知識（コンテンツ）と能力（スキル、コンピテンシー）は何か、また社会人として仕事をする上で必要とされる「教養」はどう位置づけられるのか、高校－大学の連続性の中で考える研究会を開催しました。



小椋センター長

宮下次衛学長は、冒頭、本学の使命は、「社会に役立つ人材を育て、出口を確保し、次の入口までしっかり送り出すこと」と述べ、そのためには大学だけでなく高校との連携が欠かせないこと、またこの信頼関係があってこそ、さまざまな取り組みが結実している、と挨拶しました。今回の研究会ではかねてより要望の多かった「就職の湘北」のキャリア教育の実践的な授業の内容も紹介しています。

当日は超大型台風21号の接近が危ぶまれる荒天にもかかわらず、11の高校（愛川高校、相原高校、足柄高校、厚木北高校、厚木商業高校、有馬高校、小田原東高校、寒川高校、高浜高校、平塚商業高校、平塚湘風高校）から先生方にお越しいただきました。高校の授業では「就職対策」を明確に示した授業はないが、「就職活動実践演習」の話は大変参考になった、インターンシップの必要性を実感した、生活の中でも数的リテラシー（数学的な考え）を身につけさせることの大切さを感じた、数学と国語の根源にある論理性に同感した、など多くの感想・ご意見をいただき、たいへん有意義な情報交換の場となりました。

湘北の就職対策実践演習

キャリアサポート部 部長 竹内 淳

本学では、総合ビジネス・情報学科と生活プロデュース学科 1年の後期から、インターンシップリテラシーと就職活動実践演習の2講座を開講し、就職についての意識付けを始めています。

就職活動実践演習の特徴は、本学の就職先企業が実際に行った筆記試験や面接質問を徹底的に調査し、講座内容に反映している点です。また、社会の変化に合わせ、企業が必要とする人材についても、毎年修正をかけています。大きな大学では業者に任せる場合もありますが、本学では企業出身者の職員が、調査・研究を重ね、本学の学生に合わせた手作りの講義を行っています。この講座では学生の達成目標や成績評価方法もオープンに説明し、企業が就職活動学生を選ぶ基準で公平に評価を行っています。学生に就職活動を俯瞰的にとらえてもらい効率よく準備し、乗り切ってもらうためです。



竹内部長

ほとんどの学生は、将来就くべき仕事を決めて入学しているわけではありませんし、働くことの意義の理解も不足しています。そのため、できるだけ早い時期に基本を身に付け、3月の解禁日までに就職活動の準備を行います。履歴書対策、筆記試験対策、面接対策が講座の基本となっていますが、その成果は、数字となって表れています。平成29年度卒業生の全国の大学の平均*実就職率84.7%に対し、湘北短期大学は97%でした。内定を取るまでの平均応募数も本学は4社（全国大学平均42社）でした。志望企業を絞り、早く準備をさせた成果といえます。

年間3,600件の相談を4名の職員で、一人ひとり丁寧に対応することはもちろんのこと、「出口の保証と約束」をミッションとし、入学した学生は必ず卒業までに進路を決められるよう、我々職員も強い意志を持ち支援しています。

*実就職率＝就職者数÷(卒業者数－進学者数－留学者数)(%)



内海教授

教養というと、浮世離れした知識をたくさん蓄えて蘊蓄を語るというようなイメージを持たれることもある。しかし、知識を自分の手足として活用し、深い理解と洞察を持ち合わせていることこそが教養であると捉えれば、AI時代にこそ教養は必要になることがわかる。

数的リテラシーを、数を使った説明を理解すること、数を使って説明できること、関係性を定量的にモデリングできることであると定義すると、数的リテラシーは教養を下支えする能力として必須であることが明確になる。近年多くの学生の数的能力の低下が指摘され実証されてきたが、多くの場合、大学は学生が社会に出る前の最後の教育機関になることから、対策は必須となっている。湘北短期大学でも反転授業で実施される「基礎教養のための数学」やアダプティブラーニングで実施される「キャリアベーシック(SPI)」といった授業を展開している。

数的リテラシー向上に対する主な対策は数式運用に関するものであり、それは訓練によって確かに向上する。しかし、数的リテラシーを持つために本当に必要なことはそれだけではない。環境から数字を取り出しイメージを持つこと、文章の意味を理解すること、抽象化された数学の問題を現実問題に適用できるようになることの3つがより重要である。この3つの力をもつように学生に持たせるかについて、系統的な方法は明確ではない。

この問題は、文章の意味理解と構造的には同じように見える。語彙力はある程度機械的な訓練によって向上させることができるが、意味を理解して要約したり、現実の対象に対して適切な言葉を関連付けたり、隠喩を用いて説明したりすることができるようになるための系統的な方法はやはり明確とは言えない。

最近、新井紀子氏らによって、AIは抽象概念の意味理解ができないことが指摘されている。しかし、いまのところ人間のみが可能な意味の理解が、実は多くの人間にとっても不得意であることも指摘されている。

明確となっている数式運用能力の向上を図る必要はある。しかし、方法が不明確であっても意味理解と抽象概念の現実への適用へ学生を導くことの重要性とそれに向けた挑戦を、我々は忘れてはならない。

高大連携「教育交流協定」締結のお知らせ

～ 平成 30 年度前期 ～

平成 30 年度に入り、神奈川県立平塚商業高等学校、神奈川県立寒川高等学校の 2 校と、「教育交流協定」を締結いたしました。平成 19 年 12 月、神奈川県立舞岡高等学校の調印から 10 年以上の年月を経て、今回の調印で本学との協定校は 29 校となりました。この協定により、各々の教育の向上に資することを目的として、教育に関する情報交換、教育連携の研究、その他双方が協議し合意した教育交流事業を行います。

ここ近年、高等学校の現場における教育事業には大きな変動がうかがわれます。本学のリベラルアーツセンターでも、高大連携を中心軸として、教育に関する情報交換、教育連携の研究、高校生のためのワークショップの開催など、これまで以上に活発な教育交流事業を展開して行きたいと思っております。引き続き、協定校、関係者のみなさまのご理解とご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

神奈川県立平塚商業高等学校

平成 30 年 4 月 10 日

平成 30 年 4 月 10 日(火)、平塚商業高等学校にて、「平塚商業高等学校と湘北短期大学との教育交流協定書」への調印を交わしました。

当日、平塚商業高等学校からは、金森校長、穂田総括教諭が、本学からは、宮下学長が出席し調印式を執り行いました。

(写真左より、宮下学長、穂田総括教諭、金森校長)



神奈川県立寒川高等学校

平成 30 年 6 月 18 日

平成 30 年 6 月 18 日(月)、寒川高等学校にて、「寒川高等学校と湘北短期大学との教育交流協定書」への調印を交わしました。

当日、寒川高等学校からは、細田校長、笠原副校長が、本学からは宮下学長、小棹リベラルアーツセンター長が出席し調印式を執り行いました。

(写真左より、笠原副校長、細田校長、宮下学長、小棹センター長)



平成 30 年度 出張授業(前期)のご報告・今後の予定

出張授業 訪問記 ～ 高校生の学びを見る ～

図書館情報サービス課(IT コンシェルジュ) 熊谷 裕子



8月24日(金)、川崎総合科学高校での内海教授の出張授業「音～センサー・出力系システム作成～」を見学した。Arduino という教育用に開発されたワンボードマイコンを使って簡単な電子工作をし、それを制御するためのプログラムを作成する。参加生徒は1、2年生合わせて7名。「Arduino」について聞いたことはあるが使った経験はないとのことだったが、簡単なしくみの説明を受けた後、早速制作開始となった。

用意された材料は、温度、光、超音波、音などの入力センサーと、LED、スピーカー、モーターなどの出力デバイス。生徒達は入力側と出力側、好きなものを選んで回路を組み、サンプルプログラムを入力して動かしてみる。

講師の内海教授だけでなく、サポート役で参加した本学学生2名と、同席された高校の先生方も付いていたが、生徒達はアドバイスを受けながら自分達で考え、試行錯誤してシステムを組み上げ、改良していく。先生側も、生徒の「こうしたい！」を叶えるために一緒に悩んだりする様子が見られ、次第に「教えるー教わる」場から「皆で作りに上げていく」場に変化していった。

最後に各々が作品を発表し、内海教授の講評を受けて、2時間の授業があつという間に終了した。授業を通して生徒達の中で以下のようなことが起きていたのではないだろうか。

●面白そうなことをやってみようという気持ち、好きなことをやってもいいという状態が、馴染みのない電子工作や言語というハードルを超える。

●実際にシステムを作り、プログラムで動かすことで、普段しなくてはいけない地道な努力(例えば数学やプログラミングの学習など)の重要性を実感する。

●先生達自身が楽しんでいる様子が生徒達に伝わる。先生は教えてくれる人だけでなく、興味を同じくする仲間でもある。

●サポート役の学生(今回は当校の卒業生だったこともあり)に接することで、大学生についてのイメージが湧く。

日時：平成30年8月24日(金) 14:00～16:00
高校：川崎総合科学高等学校
授業：「音～センサー+出力系システム作成～」
総合ビジネス・情報学科教授 内海太祐



【実施の報告】

日時：平成30年6月26日(火) 13:25～14:15
高校：伊勢原高等学校
授業：「ファッションマップを作ろう」
生活プロデュース学科教授 太田奈緒



日時：平成30年7月10日(火) 13:15～14:15
高校：愛川高等学校
授業：「ピアノに親しむ」
保育学科講師 赤井裕美



日時：平成30年7月12日(木) 14:00～16:00
高校：茅ヶ崎高等学校
授業：「言葉あそび」
保育学科教授 實吉明子



日時：平成30年7月17日(火) 14:30～15:20
高校：平塚商業高等学校
授業：「マーケティング入門」
総合ビジネス・情報学科講師 松本竜一



日時：平成30年9月10日(月) 13:25～14:15
高校：高浜高等学校
授業：「似合う色の見つけ方」
生活プロデュース学科講師 小出真理子



【今後の予定】

日時：平成30年12月14日(金) 8:50～10:30
高校：小田原東高等学校
授業：「生活習慣病とは？
自己の生活習慣について考えよう」
生活プロデュース学科教授 小泉綾



日時：平成31年3月20日(水) 10:40～12:20
高校：小田原東高等学校
授業：「現代社会コミュニケーション
～お互いに理解しあうために～」
総合ビジネス・情報学科教授 飯塚順一



高校生のためのメディア・リテラシー特別講座

会場：湘北短期大学図書館

7月30日(月)、高大連携協定校の高校生を対象に、「高校生のためのメディア・リテラシー特別講座」を開講しました。テレビ局で番組制作を数多く手がけてきた上野敦史氏(本学「メディア論」非常勤講師)によるワークショップ。「ミニ番組」づくりを楽しみながら、「メディア」について考え、「メディア・リテラシー」を学びました。翌日には、オプションツアーとして、テレビ朝日でTV制作現場の見学も実施しました。



Workshop 1 「テレビ・パズル」 10:20~12:20



“これがテレビだ!”と思う絵を描き、自己紹介が始まりました。“テレビ”といっても人によってイメージは様々ですね。単純に「何で?」という疑問から、初めて会った人たちでも対話はずみずみ。

Workshop 2 「ミニ番組」制作体験 13:00~15:30

テレビ、メディアについて勉強し、いよいよミニ番組「マイニュース」づくりです。湘北生も加わり、チームに分かれてのグループワーク。それぞれにニュースのネタを集め、決定した内容を絵に描きます。さらに、ニュース原稿を作成し、自身がキャスターとなり、ニュースを発信します。リハーサルを重ね、いざ本番へと進みます。



初のキャスター体験



Wrap-up 「振り返り・まとめ」 15:30~16:00

収録した番組をみんなで視聴し、感想を述べ合います。制作からキャスターまで行い、貴重な体験になったようです。



最後にみんなでガッツポーズ!

テレビ、ラジオ、インターネットなど複数のメディアから必要な情報を取得し、活用・発信するスキルが重要な現代。今回のワークショップは、受信者として情報を的確に判断すること、また、発信者として有益な情報を届けることがとても大切であることを楽しく体験できたのではないのでしょうか。

Twitter フォローをお願いいたします! 湘北短期大学リベラルアーツセンター @shohoku_lac

リベラルアーツセンターの活動、高大連携のイベント(出張授業、研究会など)をできるだけリアルタイムでお知らせしていきます。

湘北短期大学リベラルアーツセンター (担当: 北野・谷口・岡廣)

〒243-8501 神奈川県厚木市温水 428
TEL:046-247-3131/FAX:046-247-3667
E-mail:LAC@shohoku.ac.jp
URL: http://scopp.shohoku.ac.jp/



湘北
ナビットくん

高大連携通信 vol.16

発行日:平成30年10月10日(木)
発行元:湘北短期大学
リベラルアーツセンター